

# 中高生とともに差別と闘う

## 前へ、前へ

吉成タダシ（うずしおランチ代表）



前へ、前へ

コロナ禍になり、大勢で集まれなくなってきたら、私はジリジリし続けていました。「みんなで語り合う人権学習」が開催できなくなりました。各教室で人権学習を行うのはいいのですが、この学習の醍醐味は、教室の枠を超えて多様な考えや意見、思いにふれ、またそれを返し、つながり合うところにあります。

感染が収まったタイミングを見ながら、開催をずっと探してきましたが、なかなか思い通りにはいきません。

「このままでは、人権学習自体が後退してしまうのでは」  
そんな危機感をずっと持っていました。

一方、テレビのニュースでは、オンラインでの授業の動画が流れ、それがさも「今の学校の当たり前前」のように報じられています。しかし、残念ながら私の町ではそこまで進んでいません。なぜならタブレットの扱いも慣れなうえに、通信環境も不安定で、まるで「無用の長物」のような扱いになっているからです。それは近隣の学校も同様です。このままでは、ICT較差として取り残されかねません。みなさんの町ではそんなことは起こっていないでしょうか。

二期が始まってすぐ、三年生六教室をオンラインでつないで、「みんなで語り合う人権学習」が、案として急浮上しました。開催三日前のこ

とです。果たしてどうすればいいのか、本当にできるのか。

日ごろあまり物事を真剣に考えない私が、真剣に考えました。タブレットの扱いを相談したり、オンラインについて試したり、協力していただいたり。とにかく前へ前へと進みました。それは決して、新しいことへの挑戦とかいうカッコイイものではありません。単に、人権学習を後退させたくなかっただけです。もっと正直に言えば、私が人権学習をしたかっただけ。それが、前に進む原動力でした。

### 資料「教科書無償化運動」

オンライン授業の目処は何とかなりましたが、授業をどう流していくかはまったく未知数でした。

資料のメインは、「教科書無償化運動」。戦後、国民権、基本的人権の尊重、平和主義に立脚した日本国憲法が施行されました。しかし理念は掲げられたものの、まだまだ実生活には生きていませんでした。

一九六一年、高知の被差別部落の親たちが、憲法第二十六条「義務教育は、これを無償とする」の条文を手がかりに行動を起こします。それまで、部落の子どもたちが学校に行きたくても行けなかった大きな理由の一つは、差別によって教科書が買えるだけの経済的余裕がなかったからです。しかし、憲法の理念に則るならば、義務教育に最低限必要である教科書は、国が保障すべきではないかと主張したわけでは、この運動は、本当に厳しい闘いとなりました。

張したわけでは、この運動は、本当に厳しい闘いとなりました。

当時日本は、東京オリンピックを目前に控え、戦後民主国家として生まれ変わった姿を世界に示す必要がありました。人権に配慮していることを内外に知らしめる意味でも重要であり、この問題は国会でも取りあげられました。そしてオリンピックの開かれた一九六四年から、全国で段階的に教科書の無償配布がスタートしていったわけです。

皆さんはこの事実をご存じでしたか。私は教員になるまで知りませんでした。でもその恩恵は受けてきたのです。恩恵は受けてきたのに、その成り立ちには知らないっておかしいと思いませんか。そういう意味でもこの運動は、みんなが知る必要のある大変意義深い教材だと思っています。

### 絞り込んだ二点

でも私は、別段、このような歴史や公民の授業をしたいわけではありませんでした。その上、初のオンライン授業がトラブルなくスムーズに進められるかも不透明でした。意外に思い通りに進むかもしれないし、トラブルに苛まれ、まったく思い通りに進まないかもしれません。そんななかで、この時間に子どもたちに何を伝えたいかと考えたとき、思い描いたのは二点でした。

会に、オンラインでも子どもたち同士をつなげたいということ。

もう一つは、「今がよければ、自分がよければ」ではなく、当時の人々が、「未来のため、子や孫のため」に行動をしたということ。もう一つ踏み込んで言えば、「部落がよくなければいい」という発想で動いたのではなかったということ。

この二点に絞りました。そして、コロナ禍のなか、ただでさえ「内向き」になりがちなうえに、いくつもの楽しいイベントが消え、さらに追い打ちをかけている受験勉強が絡み、鬱々としているであろう子どもたちが抱えるイライラや、ギスギスしがちな人間関係をほぐしながら、「私たちはなぜ学ぶのか」「どんな仲間集団をめざしていくのか」を、「教科書無償化運動」を通して見つめ直してほしいと考えたのです。

授業後の生徒感想の一つです。  
「今日の道徳の授業ですが、考えさせられることが多くありました。まずリモート授業という特別感もあり、より真剣に取り組むことができました。内容については、昔の人たちが差別という大きな問題に立ち向かったことは、やはり何度も考えても素晴らしいと思います。このような勇気を持った人になりたいです。」  
リモートならではの良さもあるようです。また、内容についても伝わっているようです。

続きは次号で。